

『日本語日常会話コーパス』から見た  
日常会話における日本語母語話者の「いただく」の補助動詞の使用実態  
陳 紅衛 大起日本語学校非常勤講師

## 1. はじめに

「いただく」は日常生活の中で、様々な場面でよく使われている謙讓語の一つである。しかし、「いただく」の補助動詞には依頼や受益、感謝など様々な機能があるため、日本語母語話者でも正しく把握するのは難しい。野口（2013、24）は、「現代日本人に最も好まれている敬語が「いただく」である。しかしながら、正しく使われているとは言いがたい」と指摘している。『日本語日常会話コーパス』（Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC）には次のような用例がある。句読点は筆者が付けたもので、会話の末尾に示したものの「T005\_019」はCEJCによる会話IDである。なお、「いただく」の補助動詞の該当箇所には下線を引く。

(1) 石橋(70-74 男) : あの、お任せしていただきたいと思います。 (T005\_019)

用例(1)は形の誤りである。このような誤用について、菊地（1997、208）では「「お/ご~していただく」という形も、高めるべき対象である~の意味上の主語——右例（原文まま）なら「書く」人（=頼む相手）・「指導する」人（=先生）——について謙讓語形「お/ご~する」を使っているの、一般に誤りである」と指摘している。

本研究では、「~ていただく」と「お~いただく」、「ご~いただく」を調査対象とし、『日本語日常会話コーパス』（以下、CEJC）を用いて、日常会話の様々な場面で、日本語母語話者がどのように「いただく」の補助動詞を使っているかを明らかにすることを試みる。

## 2. 先行研究

原田（2007）は上村コーパスを用いて、日本語会話における「授受表現」の使用実態を調査している。調査結果によると、「~てもらおう」の謙讓語「~ていただく」の使用が非常に多いことが分かったという。また、「~ていただく」について、「依頼」の表現の使用数が圧倒的に多いこと、そして、「お礼・感謝」の表現は女性の使用数が多いことが分かったという。

米澤（2013）はTVのトーク番組の場面で、主にゲスト・司会者の発話を対象に、「ていただく」の使用実態を調査している。調査の結果、「ていただく」の総用例数に占める割合の高さを確認できたという。その要因について、米澤（2013、23）は、「話し手は「ていただく」を用いることにより、個人の話題をその場の共有の話題として提示できるため、聞き手に対して配慮を示せることになるわけである」と指摘している。

野呂（2015）は短期大学の1年生を調査協力者に、「いただく」と「くださる」の使用

状況を考察している。調査結果によると、感謝表現においては、「いただく」を用いた学生が「くださる」を用いた学生より圧倒的に多く、依頼表現において、野呂（2015、24）は、「「くださる」が多数派であるものの、「いただく」の広がりが見られる。ただし、訂正前の表現に「利用してくれる」と「くれる」が含まれているため、「いただく」を通常用いている学生が、「くださる」を用いている可能性は否定できない」と述べている。

話し言葉における「いただく」の補助動詞の使用実態に関する先行研究はいくつかあるが、利用するコーパスや調査対象に偏りがある。そこで、本研究では日常会話の様々な場面で自然に生じる会話を調査対象とし、日本語母語話者の「いただく」の補助動詞の使用実態を明らかにしたい。

### 3. 研究の目的

本研究では「いただく」の補助動詞の機能を焦点に、CEJCの中納言版を用いて、補助動詞としての「いただく」について、機能ごとに①会話形式別の使用差があるかどうか、②年齢層別の使用差があるかどうか、③男女別の使用差があるかどうか、という3つの面から日本語母語話における「いただく」の補助動詞の使用実態を明らかにすることを目的とする。

## 4. 『日本語日常会話コーパス』における調査

### 4.1 調査方法

検索方法は「～ていただく」、「～でいただく」、「お～いただく」、「ご～いただく」の4つの検索語を基に設定し、例文を収集する。

### 4.2 分析方法

原田（2007）は「～ていただく」の補助動詞の機能を「依頼」の表現と「お礼・感謝」の表現の2つに分類している。

グループ・ジャマシイ（2023）によると、「いただく」の補助動詞には、「受益」と「指示」の機能もある。「受益」について、グループ・ジャマシイ（2023、218）では、「「だれかが話し手、あるいは話し手側の人のためにある行為をする」という意味を表す。普通、恩恵を受けたという気持ちが含まれる」と述べている。「指示」について、グループ・ジャマシイ（2023、218）では、「丁寧に指示を与えるのに使われる。一方的に指示できる立場の人しか使えない」と述べている。

感謝表現について、感謝の言葉「ありがとう」のほか、三宅（2002、9）では、「「すみません」に限らず、いわゆる謝罪表現（例えば「恐れ入ります」、「申し訳ありません」「悪いね」）が感謝の意味で使われる例は少なくない」と述べている。

本研究では、原田（2007）、グループ・ジャマシイ（2023）、三宅（2002）を参考に、「いただく」の補助動詞の機能を①依頼と、②受益、③感謝、④指示の4つに分類し、それに⑤誤用も含め、「いただく」の補助動詞の用例の分類方法を次の表1とする。①～⑤のどちらにも入らない用例は⑥その他にする。

表1 本研究の分類

分類	例文 (CEJC による用例)	判断基準
①依頼	あの鉢とゆうものを <u>貸していただけますか</u> 。 (K005_027)	形と文脈で判断 未発生のこと
②受益	これ、 <u>作っていただいた</u> やつ。(K005_027) で、今描いて <u>いただ</u> いてる中で (T007_007)	形と文脈で判断 進行中、完了のこと
③感謝	いろいろ出 <u>して</u> いただいちゃって、 <u>ありがとうご</u> <u>ざ</u> いました。(T014_008)	「いただく」+感謝の意 味で使われる言葉
④指示	体調管理には十分 <u>注意</u> して <u>いただき</u> 、無理はしな いでください。(T007_009)	形と文脈で判断
⑤誤用	あの、わたしのほうで、あの、 <u>お任せ</u> して <u>いただ</u> <u>き</u> たいと思います。(T005_019)	形で判断
⑥その他	でもあの、お怒りに <u>なら</u> れるよりは、あの、 <u>おと</u> <u>なし</u> ゅうして <u>いただ</u> いてると、わたしももはや (T008_017a)	文脈で判断

### 4.3 調査結果

#### 4.3.1 CEJC における「いただく」の補助動詞の検索結果と対象外にした用例

調査対象となる「いただく」の補助動詞用例を抽出するため、次の2つの作業を行った。  
まず、検索結果から「いただく」の本動詞の用例と重複した用例、自作した用例など、  
研究対象とならない用例を削除する。

4.1の検索方法で得られた用例数は474件であるが、その中には本動詞の用例が11件である。また、次の(2)と(3)のような用例もある。

(2) 奈々(15-19女)：例えば、小田急線をお使いいただきましてってゆう時と、お使い  
くださいましてってゆう時があんじゃん。(W009\_001)

(3) 澄香(15-19女)：ワークショップの参加者は、当日に限り、ミュージアムに前売り  
券のニュ料金で、ご入館いただけます。

母(55-59女)：まあ、でも前売り券たって、そんな安くはないよ。

澄香(15-19女)：八百円で書いてあった。(W009\_002a)

用例(2)は高校生が「いただく」の使い方について会話しているとき、自作した用例や  
引用した用例がある。用例(3)は店側の掲示板の言葉をそのまま引用した商業敬語である。  
これらの用例も本研究の研究対象外とする。

また、「講演をしていただいていただく」の中に「ていただく」の用例が2件出現した  
が、本研究では1件とカウントする。「おいでいただきますように」は「お～いただく」  
と「～でいただ」両方の検索で出現したが、本研究では「お～いただく」とカウントする。  
次に、検索結果には「～(さ)せていただく」という使役動詞のて形+「いただく」の

用例 120 件も検出されたため、上の作業で得られた用例から、この 120 件の用例を引く。次の表 2 は「いただく」の補助動詞の検索結果と対象外にした用例数である。

表 2 CEJC における「いただく」の補助動詞の検索結果と本研究の対象数

形式	～ていただく	～でいただく	お～いただく	ご～いただく	合計
検索結果	407	27	21	19	474
除外数	125	11	1	1	138
対象数	282	16	20	18	336

#### 4.3.2 「いただく」の補助動詞の調査結果

CEJC における本研究の考察対象となる「いただく」の補助動詞 336 件の用例を、表 1 の分類方法を用いて分類した。分類結果を表 3 で示す。

表 3 「いただく」の補助動詞の用例数

	依頼	受益	感謝	指示	誤用	その他	合計
男	102	21	5	2	5	8	143
女	105	57	12	6	6	7	193
合計	207	78	17	8	11	15	336

「いただく」の補助動詞の 4 つの機能の中で、用例数が最も多い機能は依頼で (207 件)、次いで受益 (78 件)、感謝 (17 件)、指示 (8 件) と続く。

男女別の用例数を見ると、女性は 193 件であり、男性の 143 件より多い。依頼において、男女の用例数はほぼ差がないが、受益と感謝、指示において、女性の用例数は男性より多い。

CEJC では会話の形式を雑談、用談・相談、会議・会合、授業・レッスンの 4 つに分けている。本研究では CEJC の分類に従って分析していく。表 4 ではその他の用例を除いての「いただく」の補助動詞の会話の形式ごとの用例数である。

表 4 会話の形式ごとの用例数

	依頼	受益	感謝	指示	誤用	合計
雑談	39	26	9	0	1	75
用談・相談	82	23	2	7	3	117
会議・会合	76	28	5	0	7	116
授業・レッスン	10	1	1	1	0	13

用例数が最も多い会話の形式は「用談・相談」(117 件)、次いで「会議・会合」(116 件)、雑談 (75 件)、「授業・レッスン」(13 件) と続く。「授業・レッスン」の用例数

は少ないが、CEJC に収録されている「授業・レッスン」の会話データ数自体が少ない。「用談・相談」と「会議・会合」、「授業・レッスン」の用例数を併せて 246 件であり、「いただく」の補助動詞の総用例数の 7 割以上を占め、改まった場面での使用が多い。その他の用例を除いての男女年齢層別の用例数については、次の表 5 となった。

表 5 年齢層別の「いただく」の補助動詞の使用実態

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明	合計
男	1	11	22	16	19	26	38	1	0	1	135
女	1	4	35	41	75	21	2	4	1	2	186

表 5 を見ると、10 代以下と 80 代以上において、男性と女性はともに用例数が少ない。30 代から 50 代においては女性の用例数が男性より多いのに対し、20 代と 60 代、70 代においては男性のほうが多い。特に 40 代と 50 代、70 代において、その使用差が大きい。

#### 4.4 機能別の使用実態

##### 4.4.1 依頼表現

依頼表現の会話の形式別の用例数は、「会議・会合」が 76 件と「用談・相談」が 82 件、「授業・レッスン」が 10 件となっている。併せて改まった場面での用例数が 168 件であり、依頼表現総用例数の 8 割以上を占め、改まった場面での用例数が多いことがわかった。次の表 6 は年齢層別の男女の依頼表現の用例数である。

表 6 年齢層別の男女の依頼表現の用例数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	合計
男	1	9	16	16	14	17	27	1	1	102
女	0	1	23	26	42	9	1	1	2	105

表 6 を見ると、30 代から 50 代までは女性の用例数が多いのに対し、20 代と 60 代、70 代は男性の用例が多い。しかし、CEJC において、同じ発話者による用例数が多数であることは多くの年齢層において確認できた。次の (4) は 70 代男性の用例である。

(4) 塚田(70-74 男)：えーっと、ま、一ページ目ひらいていただくと。

平賀(70-74 男)：はい。

(T007\_009)

用例 (4) は駐輪場事務所における同僚への業務説明の「用談・相談」である。この発話者 1 名による用例が 21 件であり、70 代男性の用例数の 7 割を超えている。このように、同じ発話者 1 名による用例が多数であるため、CEJC に収録されている会話データ自体に偏りがあることは否めない。

#### 4.4.2 受益表現

受益表現の会話の形式別の用例数は、「雑談」が26件と「用談・相談」が23件、「会議・会合」が28件、「授業・レッスン」が1件となっている。改まった場面での用例数が多い。次の表7は年齢層別の男女の受益表現の用例数である。

表7 年齢層別の男女の受益表現の用例数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男	0	1	6	0	3	7	4	0	0	21
女	1	3	9	10	21	9	1	2	1	57

4.4.1節で述べたように、CEJCに収録されている会話データ自体は偏りがあるが、受益表現においては、女性の用例数は男性の2.8倍であり、しかも、70代を除いて、全ての年齢層においては女性の用例数が男性より多く、男女の使用差があることが認められる。

男性の21件の内訳は、「会議・会合」が16件と「用談・相談」が4件、「授業・レッスン」が1件となり、全てが改まった場面の用例である。女性の57件の内訳は、「会議・会合」が12件と「用談・相談」が19件、「雑談」が26件である。男性では改まった場面だけの用例が現れたのに対し、女性のほうは改まった場面でも、くだけた場面でも用例数がほぼ同じであり、日常生活において女性が受益表現をよく使用することが窺えた。

#### 4.4.3 感謝表現

感謝表現は17件であるが、その中で、男性が5件に対し、女性のほうは12件となり、男性の2倍を超えている。受益表現と同じような傾向、つまり男性より女性のほうが感謝表現を多く使用することが窺えた。表8は年齢層別の男女の感謝表現の用例数である。

表8 年齢層別の男女の感謝表現の用例数

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男	0	0	2	2	1	0	5
女	2	2	5	2	0	1	12

50代の用例が一番多いが、全体的に感謝表現の用例数が少ないため、年齢層別においての使用差があるかは断言できない。

#### 4.4.4 指示表現

指示表現の会話の形式別の用例数は、「用談・相談」が7件と、「授業・レッスン」が1件となり、全てが改まった場面での用例である。その中で、男性が2件に対して、女性のほうは6件となり、男性より多い。しかし、女性50代の4件は同じ発話者によるものであり、しかも会話場面、相手も同じ人物であるため、男女の使用差があるとは言えない。表9は年齢層別の男女の指示表現の用例数である。

表9 年齢層別の男女の指示表現の用例数

	40代	50代	60代	70代	合計
男	0	0	0	2	2
女	1	5	0	0	6

#### 4.4.5 誤用

誤用数の会話の形式別の用例数は、「用談・相談」が3件と、「会議・会合」が7件、「雑談」が1件となっている。表10は年齢層別の男女の誤用表現の用例数である。

表10 年齢層別の男女の誤用の用例数

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男	1	0	0	0	0	4	5
女	0	1	2	2	1	0	6

男性70代の4件が目立っているが、この4件は全てが用例(1)の発話者1名によるもので、本動詞も全て「任せる」という語である。同じ形の誤用は女性にも5件あったが、それは4人による誤用で、しかも本動詞もそれぞれ異なっている。男性の誤用はその発話者の口癖と言えるが、女性の誤用は単に誤りとしか感じられない。

## 5 日本語母語話者の使用実態の考察

本研究ではCEJCを用いて、日本語母語話者の「いただく」の補助動詞の使用実態を調査した。その使用実態は次の三つの傾向が見られた。

A. 会話の形式に偏りなく、幅広い場面で使用される用法は依頼表現と受益表現である。

「いただく」の補助動詞の全用例数は336件であるが、そのうち、依頼表現が207件と受益表現が78件であり、それぞれ1位と2位となっている。この2つの表現の用例数を併せて、「いただく」の補助動詞の全用例数の8割以上を占め、「いただく」の補助動詞の機能の中で、日本語母語話者が愛用している用法であると言える。原田(2007)は「～ていただく」を「依頼表現」と「お礼・感謝表現」の2つに分類しているが、「～ていただく」の221件の中で、「依頼表現」が85件であり、約4割を占めている。本研究においても、依頼表現が「いただく」の補助動詞の全用例数の6割以上を占めている。依頼表現が多用されている傾向が確認できた。

B. いずれの会話の形式においても使用数が少ない用法は感謝表現と指示表現である。

「いただく」を用いた感謝表現「御利用いたたきましてありがとうございます」について、文化審議会答申「敬語の指針」(2007、40)では、「このような「いただく」の用法に対しては、その受け止め方に個人差があり、不適切な用法だと感じている人たちもいる」と述べている。このように、不適切な用法だと感じている人もおり、実際の日常会話においては、使用の頻度は限られている。

指示表現では「一方的に指示できる立場の人しか使えない」という使用制限があるため、

使用数は少ない。また、依頼表現と指示表現の両方が使える場合、日本語母語話者は依頼表現を選択する傾向がある。

C. 男女性別の使用差について、受益表現と感謝表現においては女性のほうが男性より用例数が多い。

受益表現の男女性別の使用差について、男性が21件であるのに対し、女性が57件であり、女性のほうが男性より用例数が多い。また、男性では改まった場面のみ用例が出現したが、女性では改まった場面でも、砕けた場面でも用例が出現した。女性では男性よりも、会話の相手に恩恵の意を示す話し方をする傾向があると言える。

感謝表現について、原田（2007）の調査では、「～ていただく」を用いた感謝表現は11件であるが、その中で、男性が1件であるのに対し、女性が10件である。本研究において、感謝表現の17件の中で、男性が5件であるのに対し、女性は12件となり、男性の2倍を超えている。原田（2007）と同じような傾向が見られた。

## 6. おわりに

今回は、『日本語日常会話コーパス』（Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC）を利用し、補助動詞としての「いただく」について、日本語母語話者の使用実態を調査した。その結果、依頼表現と受益表現は会話の形式に偏りなく、幅広い場面で使用されることがと、感謝表現と指示表現はいずれの会話の形式においても使用数が少ないことを明らかにした。また、受益表現と感謝表現は女性のほうが男性より多く使用することが窺えた。これらの結果は今後の教材開発に何らかの示唆を与えることができると考えられる。

日本語教育研究の一環として、学習者の産出についての調査も重要である。今後は学習者の「いただく」の補助動詞の使用実態を調査していきたい。

## 参考文献

菊地康人（1997）『敬語』講談社

グループ・ジャマシイ（2023）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお

野口恵子（2013）『失礼な敬語：誤用例から学ぶ、正しい使い方』光文社新書

野呂健一（2015）「「いただく」を用いた依頼表現の使用実態」『キャリア研究センター 紀要・年報』第1号（pp.21-28）高田短期大学キャリア研究センター

原田登美（2007）「日本語会話における〈授受表現〉の使用実態とポライトネス・ストラテジー：「日本語会話データベース(上村コーパス)」に見る」『言語と文化』11巻（pp.117-138）甲南大学国際言語文化センター

文化審議会（2007）「敬語の指針」文化庁

三宅和子（2002）「ことばに現れる日本文化の志向性」『日本文学文化』第2号（pp.8-14）東洋大学日本文学文化学会

米澤昌子（2013）「聞き手を意識した「ていただく」の使用：TVのトーク番組における用例の分析」『同志社大学日本語・日本文化研究』第11号（pp.23-37）同志社大学日本語・日本文化教育センター